

税への感謝と納税の意義

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 1年 友信 丹琴

「税金」これは私たちがものを買った時や親が働いてくれた時に個人や会社が国に納めているお金である。このことは一般常識であるため、ほとんどの人は知っているだろう。

しかし、使われ方を知っていても税金の重さに不満を持つ人が日本には数多くいるようだ。実際、世論調査の結果によると現在納めている税金に負担を感じている人は七三・五パーセントもいる。そして、自分の収入に比べて税の負担額が大きいことや税金のしくみや徴収の仕方が不公平だということに不満を持つ人が多いことも分かった。けれども私たち学生は全国の人々が納めている税金によって生活が支えられている。消費税は私たち子どももよく払っているが、学校や医療関係のことはほとんどが国の税金によって支払われている。教科書や校舎だけでなく、先生方のお給料も全て税金から支払われているため、学生の頃から税金に親しみを持っている人は少人数だと思う。そのため学生は税金の使われ方を知らずに払っていることがよくあると思うが、大人の誰もが知っているとも限らないだろう。何となく知っていたとしても毎日のように払っているお金に関心がないことは決して良いことではなく、むしろ知っておくべき大切なことだ。だから税金に対する正しい知識を得られるように税金に関することを学習できる場を設けていくことが今後必要になると思う。それによって学生の頃から税に親しむことが増えるため大人や社会人になってから税金に対する不満が軽減され、快く納める人が増えたり学生が税金によって支えられていることを当たり前と思わず、働く人に感謝できるようになることが増えたりするだろう。そして政治について考える機会が増えて、経済が回りやすくなることにもつながるため国が活性化するだけでなく、効率よくなり安心した生活を全ての人が送れるようになると思う。

今私は教科書を無償で提供してもらっていたり、学習を受けられている。しかし、これは誰かの負担によって実現できているため私も税金の使い道を正しく身につけ、大人や社会人となり、税金を払う立場になったときは税金を納めることに負担や不満を持つのではなく、誰かのために行動できることに喜びを感じて快く納め、自分の税金で誰かが幸せになれるよう、願える人になりたい。